

科目名	文学特殊研究（2）（演習） [院]					単位	4.0
担当教員	服部 仁						
授業形態	演習	開講期間	通年	配当年次	2	授業番号	2383

●授業のテーマ

日本近世文学研究

●到達目標

著者の執筆意図を理解し、その上で、江戸時代の読者の受容態度について判断できるようになる。

●学習内容(授業概要)

日本文学を主として研究する。人間の精神的営為の表出である文学を考究することによって、そこに表われた人間の生き方や精神行動を深く学び、個々の研究テーマに沿って、立体的に発表を行う。

そもそも日本文学の研究は、平安時代に『後撰和歌集』の選者で梨壺の五人と言われた人たち（大中臣能宣・清原元輔・源順・紀時文・坂上望城）によって、『万葉集』の読解をしたことに端を発するという。さすれば、歴史のある古典的な学問には及ばないかもしれないが、それでも1000年以上に渡って営々と研究を積み重ねてきたのが、国文学、日本文学という学問体系なのである。その長期間に亘って研究が進められた結果として、現在では研究が細分化され過ぎたきらいがあるかもしれないが、国文学、日本文学という学問が、究極の人間研究に収斂されるべき学問であることは疑いない。

さらに、日本文化の特質は、在来文化と外来文化の調和であったことに考えを致す必要がある。

こうしたことを踏まえた上で、江戸時代浄土真宗が禁教であった薩摩の少女千代が、京都見物を装って本山の本願寺に参詣し、国許に帰った後にことが露見し、従容として死んでいったという『千代物語』を読んでみる。二種類の写本と板本とを読み比べてみる。

●学習内容(授業計画)

《前期》

毎時、2～3名が発表し、それについて討議、考究していく。

《後期》

毎時、2～3名が発表し、それについて討議、考究していく。

●準備学習・事後学習の内容

必ず、授業のテーマの周辺を予習して出席すること。特に、地図で場所を推定しておくこと。

●成績評価方法・基準

平常点（普段の発表）60% レポート 40%

●テキスト（必携）

授業時に指示

●参考文献／その他

適宜、指示する。

授業皆出席が当然

●履修上の注意
特になし